

セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス且ツ一室一人ヲ限リトス
第二十三條 燈火ハ監房外ニ置キ危險ノ虞ナカラシム可シ

第四章 役法及ヒ時限

第二十四條 定役ニ服スル囚徒ノ作業ハ毎囚一日ノ科程ヲ定メ服役
セシム十六歳未滿ノ者及ヒ病後ノ疲勞等ニ因テ勞作ニ堪ヘサル者
ハ其體力ニ應シ科程ヲ寬恕ス

其作業ハ成ル可ク平生ノ職務ニ要用ナル工事ヲ撰ミ之ニ服セシム
可シ

輕禁錮ノ囚徒作業ヲ爲サント請フ者アル時ハ之ヲ許スヲ得

第二十五條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外
ニ整列セシメ警查長及ヒ警查點檢ス可シ還房セシムル時モ亦同シ

第二十六條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元 始 祭

孝明天皇祭

紀 元 節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神 嘗 祭

天 長 節

新 嘗 祭

十二月三十一日

第二十七條 未決者及ヒ作業ヲ爲サル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起
床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以內監房外ニ
於テ運動セシム可シ

第二十八條 作業ヲ爲ス者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除
シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約チ一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前

十時前後ニ於テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス午飯後
暫時休憩シ再ヒ就役日没前役ヲ罷メシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム
但時宜ニ因リ其時間ヲ伸縮スルコトヲ得

起床還房就役休役罷役其他動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全
監一齊ニ動止セシム

第二十九條 造船所其他工場ノ役ニ服セシムル時ハ第二十八條ノ例
ニ拘ハラズ成ル可ク其工場ニ定メタル時限ニ從フ可シ

第五章 工錢

第三十條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢
ヲ料定シ之ヲ十分シテ其八分ヲ監獄署ニ收メ其二分ヲ與フ

定役ニ服セサル囚徒ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ
監獄署ニ收メ其七分ヲ與フ

第三十一條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期
一百日以内ハ工錢ヲ給與セズ

第三十二條 在監人ニ與フ可キ工錢ハ監獄署ニ領置シ毎月ノ首ニ於

テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシム可シ

第三十三條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢若クハ官署ノ定則ヲ準
トシ各自ノ技能ニ應ジ之ヲ定ム可シ

第三十四條 監獄署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スル
コトヲ許シ又書籍其他必用ノ物品及ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得
但其食物ハ定役ニ服スル者ハ一日金三錢定役ニ服セサル者ハ一日
金五錢ヲ限リトス

第三十五條 在監人死亡シタル時其領置ノ工錢ハ第十七條ノ例ニ照
シテ處分ス可シ

第三十六條 在監人逃走シタル時其領置ノ工錢ハ之ヲ沒收ス

第六章 給與

第三十七條 在監人ニ貸與スル物品

一 毛布若クハ蒲團

一 蚊帳

一 莞蒞

- 一枕
- 一手巾
- 一簍若クハ合羽
- 一笠

以上ノ貸與品ハ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得

第三十八條 下士卒及ヒ准卒禁錮若クハ拘留ニ處セラレタル者ハ左ノ獄衣ヲ着セシム

常衣

- 一禪 赭色
 - 一袷 同
 - 一綿入衣同
 - 一襦袢
 - 一帯 長四尺三寸白色
- 但病室ニ在ル者ハ白色潤袖衣ヲ着セシム

役衣

- 一綿入短衣 赭色
- 一袷短衣 同
- 一禪短衣 同
- 一袷股引 同
- 一禪股引 同

病室ニ在ルモノハ本條ノ限ニ在ラス

第三十九條 等外吏以下ノ軍屬及ヒ常人ハ其請求ニ因テ第三十八條ノ獄衣ヲ貸與ス

第四十條 各監房常置ノ器具

- 一貯水器 木製
- 一便器 木製 監房ニ厠開アルモノハ此器ヲ用ヒス
- 一洗手盥 木製
- 一飲器 木製
- 一唾器 木製

一小桶

一菓帚

一雜巾

第四十一條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一次剪髮ハ二月毎ニ一次剃鬚ハ一月毎ニ一次トス但醫官ノ申出ニ因リ臨時浴湯若クハ剪髮剃鬚セシムルハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第四十二條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澗ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ曬洗ス可カラス

第七章 疾病及ヒ死亡

第四十三條 在監人疾病ニ罹ル時ハ輕重ヲ量リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

第四十四條 病者ノ攝生ニ効アル飲食物若クハ湯婆等ヲ用フルヲ

要スル時ハ醫官共旨ヲ證明シ監獄署長之ヲ考檢シテ許否ス可シ

第四十五條 傳染病侵襲ノ兆アル時ハ其消毒豫防ヲ慎重ニス可シ若在監人中傳染病者アル時ハ速ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫官ノ診斷書ヲ副ハ海軍卿若クハ所管長官ニ申報ス可シ

第四十六條 在監人死亡シタル時ハ監獄署長警查長醫官會同驗屍ス可シ

驗屍畢レハ其狀況及ヒ年月日時ヲ記載シ死亡證書ヲ副ハ本人所管ノ長官ニ申報シ陸軍々人軍屬ナル時ハ其所管官司ニ通報シ軍人軍屬ニ非サル時ハ本籍ノ戶長及ビ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ未決者又ハ已決囚ニシテ再ヒ訊問ニ係ル者ハ其軍法會議ニモ亦之ヲ通報ス可シ

第四十七條 軍人軍屬在監中死亡シタル者ノ遺骸ヲ處分スルハ通常軍人軍屬ノ遺骸ニ同シ

陸軍々人軍屬ノ遺骸ハ其所管官司ノ處分ニ付ス可シ

軍人軍屬ニ非サル者ノ遺骸ハ死亡若クハ死刑執行ノ時ヨリ二十四

時内ニ請フ者アレハ之ヲ下付シ請フ者ナケレハ之ヲ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツ可シ

第八章 書信及ヒ接見

第四十八條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六月間ニ一次トシ一通ニ過クルコヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要スル時又ハ親屬故舊ニ回答ヲ爲サント請ヒ監獄署長必用ト認ムルハ此限ニ在ラス

未決者ヨリ贈ル信書ハ定限ナシ

第四十九條 在監人ノ發スル信書ハ監獄署之ヲ閱檢ス可シ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルハ通信ヲ許サス

第五十條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來ル信書ハ監獄署長之ヲ閱檢シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ悛改ヲ妨クルモノト認ムルハ之ヲ付與セス

第五十一條 未決者ニ係ル出入ノ信書ハ審問委員若クハ主理ノ閱檢

ヲ經ルニ非サレハ贈答セシムルコヲ得ス

第五十二條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ監獄署長之ヲ緘シ封皮ニ受領ス可キ者ノ住所氏名ヲ書シ海軍某監獄ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム其自辨スル資力ナキ者ニハ之ヲ許サス

親屬故舊ノ信書ハ監獄署ニ宛テ之ヲ差出サシム可シ

第五十三條 在監人ニ接見セント請フ者アルハ監獄署長先ツ之ニ面接シテ族籍職業氏名等ヲ訊ヒ其緣由旨趣ヲ詳悉シ己ムヲ得サル事情アリテ形狀ノ疑フ可キノナキハ之ヲ許シ警查長警查並蒞テ面會セシム但未決者ニ係ルハ監獄署長審問委員若クハ主理ニ照會シテ之ヲ許否ス可シ

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過クルコヲ得ス若シ面會ヲ請フノ旨趣ニ違フタル談話ヲ爲スハ直ニ之ヲ停止ス

第五十四條 死刑執行ノ以前又ハ徒流懲役禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒ヲ地方監獄ニ押送スル以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フハ

第五十三條ノ規則ニ從ヒ面會セシム但其時間ハ五十分時ヲ過クル
コト得ス

第九章 差入品

第五十五條 未決者ニ其親屬故舊ヨリ書類寢具衣服用紙若クハ飲食
物ヲ贈ラント請フルハ酒類烟草及ヒ攝生ニ害アル者ヲ除クノ外之
ヲ許ス但書籍ハ第十一條ニ記載シタル者ニ限り飲食物ハ炊煮ヲ要
セサル者ニシテ一人一食ノ量ニ限ル

第五十六條 已決囚ニハ第五十五條ニ掲クル衣服書籍及ヒ用紙ノ外
差入ヲ許サス

第十章 掲示

第五十七條 各監房ニ左ノ諸款ヲ掲示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシ
ム可シ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於
テ之ヲ讀ミ聽カス可シ但未決監ニハ第九款ヲ掲示セス

掲示

一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守ス可シ

- 一 平日互ニ和順ヲ主トス可シ
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜ス可シ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ干排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席
壁廁圖ヲ掃除ス可シ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ唾器外ニ唾シ貯水ヲ濫用スルコトヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ同行ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或
ハ路人ニ聲語スルコトヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ談話或ハ發聲或ハ濫リニ起歩スルコトヲ
禁ス晝間ト雖モ放歌喧噪或ハ高聲ニ誦讀シ又ハ隣房ノ者ト談話
スルコトヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似
ノ惡戲ヲ爲シ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ
所爲アルコトヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工
場ニ到ルコトヲ禁ス

- 一許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一總テ願向ハ官吏巡視ノ際申出可シ
- 一監獄ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラズ直ニ看守所ニ通聲ス可シ
- 一日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非サレハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フ可キモノトス若シ劇症ナル時ハ直ニ看守所ニ通聲ス可シ
- 一獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタル時ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ報ス可シ
- 一病者アル時ハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致ス可キハ勿論其看病人ニマラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病ス可シ
- 一水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ憲兵部若クハ警察署ニ其旨ヲ首出ス可シ
- 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者若クハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分ス可キ者ナリ

年號月日

海軍某監獄署

第十一章 賞譽

- 第五十八條 已決囚獄則ヲ謹守シ且峻改ノ行爲著キ者ト監獄署長ニ於テ認ムル時ハ之ヲ賞譽ス可シ
- 第五十九條 賞譽セシ者ニハ賞譽毎ニ之ヲ表スル爲メ衣服ノ左袖肩臂間ノ表面ニ横ニ寸豎一寸ノ赤色ノ布ヲ縫着ス可シ
- 第六十條 賞表ハ假出獄若クハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得
- 第六十一條 賞表ヲ得タル者ニハ二月間ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス
- 第六十二條 已決囚在監人ノ逃走ヲ密告若クハ捕獲シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ或ハ人命ヲ救援シタル者アル時ハ金貳拾五錢以下ヲ賞與ス其賞金ハ監獄署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給ス可シ但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス
- 第六十三條 未決監ニ在ル者第六十二條ノ功勞アル時ハ之ヲ録シテ軍法會議ノ參考ニ供ス可シ

懲治人ニ在テハ金貳拾五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フ可

第十二章 懲罰

第六十四條 已決囚獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ寢具ヲ禁ス

第六十五條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限ト爲ス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ悛改ノ狀ナキ時ハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ

科スルヲ得

第六十六條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減セス

獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内ト爲ス

第六十七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケタル者獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ第六十五條第六十六條ニ準擬シ減食スルヲ得

第六十八條 賞表ヲ有スル者懲罰ヲ受ケタル時ハ賞表一個若クハ數個ヲ褫奪ス

第六十九條 減食若クハ閤室ノ罰ニ處ス可キ者アル時ハ醫官ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フ可シ

第七十條 屏禁減食閤室若クハ獨慎ノ罰ニ處シタル者アル時ハ監獄署長若クハ警查長時々其動靜ヲ察シ狀況ニ由リ醫官ヲシテ之ヲ問ハシムルヲアル可シ

2/5/39

指伺整
内川頭
令類現
衆行
大日本六法類編
下編
刑法
治罪法
大尾

節ニ早 分リ日 刻ア秒 ヲルニ 別國ニ 由テ何 レテ此 分ニモ 異ハ差 保ツキ スハ均 之ヲ大 起テ平 其ク姑 刻各床 ス各官 司ノ區 表ノ分 シテ此 ハ此ノ 囚シテ シテス ハ此ノ

六百四

明治十八年九月廿一日出版御届
 明治十九年一月十五日改題及製本改御届
 同 年一月十六日刊 行

定價金六圓

編纂者

長野縣士族

小松 恒

東京府神田區三崎町
第十番地

出版兼
行者

大坂府平民

花井 卯助

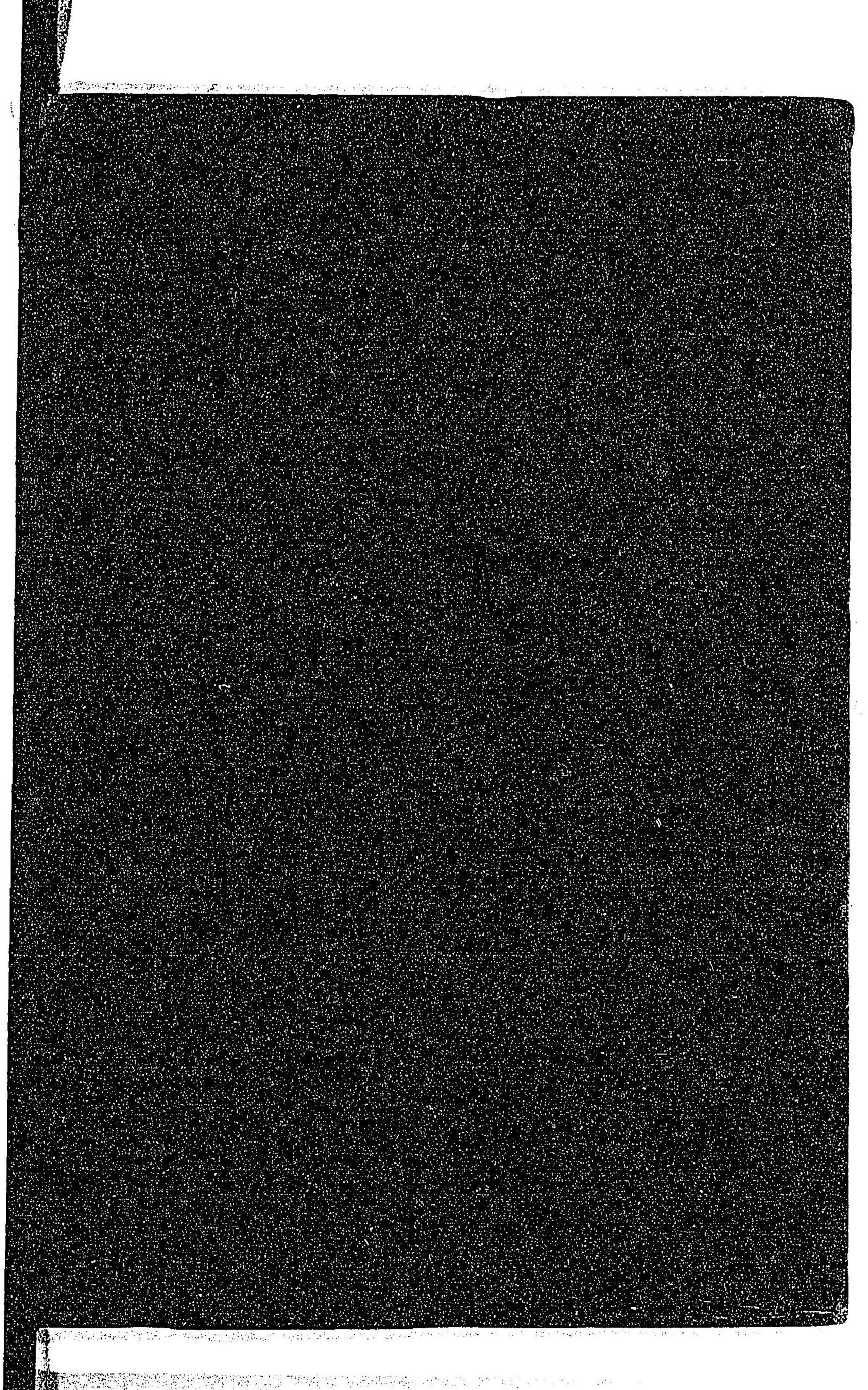
大坂府東區安土町四丁目
第十一番地

第五編 刑事百二十八丁ノ左朗。鮮ハ朝鮮ノ誤リ

第六編 治罪中三百七十七丁ノ右七行ノ頭本ノ字ヲ脱ス

第六編 治罪中五百四十一丁ノ右七行第三十條ハ十三ノ誤植

147
22



147
22

禁電子式複写

031035-003-8

CZ-5-09

大日本六法類編

小松 恒/編

下

M19

BBC-0528



